

平成18年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成18年4月28日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：フタモンマダラメイガ（異名：クロフタモンマダラメイガ）
Euzophera batangensis Caradja

作物名：ナシ

1 発生経過

- (1) 平成18年2月に県内で栽培されているナシで、主幹および主枝の樹皮下において食害痕の発生や虫糞の排出があるとの連絡を受けた。
- (2) 3月8日に現地を調査したところ、同様の被害が確認された。さらに虫糞が排出された周囲の粗皮を削り取り、樹皮下を調査したところ鱗翅目昆虫と思われる幼虫と蛹が採集された。
- (3) この昆虫を恒温器内で保護したところ、メイガと思われる蛾が羽化した。羽化した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、名古屋植物防疫所中部空港支所の船橋勝幸氏により、フタモンマダラメイガ（異名：クロフタモンマダラメイガ）と同定された。
- (4) また平成18年3月に他地域より同様な被害の報告と、羽化した蛾の持ち込みがあったため、同時に同定依頼を行ったところ同種であることが確認された。
- (5) フタモンマダラメイガによるナシの被害は、本県では初めての確認である。他県では、平成11年に三重県、平成14年に愛知県、平成18年に愛媛県で被害が報告されており、愛媛県では本種による果実の被害も確認されている。

2 形態および生態

(1) 形態

老熟幼虫の体長は13mm前後、頭部は光沢のある茶褐色、体は淡褐色。加害部の粗皮下に白色楕円形の繭を作って蛹化するが、繭が薄いので中の黄褐色の蛹が透けて見える。蛹の体長は10mm前後。成虫は開長15mm前後、暗紫褐色で前翅中央に灰褐色の波状の横帯が2本ある。

(2) 生態

年3～4回発生する。老熟幼虫で越冬し翌春蛹化する。茨城県では、4月後半～5月前半、6月、7月、および8～9月前半の4回、成虫が羽化する。幼虫は枝の分岐部、剪定時の切り口や癒合部、徒長枝の基部などの樹皮下の形成層を食害する。被害部は黒変し、糸で綴られた褐色の糞が見られる。

3 被害および寄主植物

(1) 被害

主幹、主枝の樹皮下での食害痕や虫糞の排出。加害部位は剪定時の切り口部や癒合部に多く、樹皮下の形成層を食害する。主幹に受けた加害痕は環状剥皮を行ったようである。品種では豊水の被害が多い。

(2) 寄主範囲

カキ、クリ、リンゴでの被害が確認されている。

4 防除対策

(1) 虫糞が排出されている部位の粗皮を削り、樹皮下に生息している幼虫、蛹を捕殺する。

(2) ナシではフタモンマダラメイガに対して登録薬剤はない。



被害部(虫糞の排出が見られる)



被害部の樹皮を削り取ったとき現れた幼虫



老熟幼虫



粗繭内の蛹



成虫

神奈川県病害虫防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレフォンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp

